

令和5年度豊橋市立豊城中学校研究概要（一年次）

1 研究主題

自らの学びを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成

～世界（ひと・もの・こと）との関わり合いによる考えの再構築の繰り返しを通して～

2 主題設定の理由

急激な変化する時代の中で、社会の在り方そのものが、これまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わりつつある。「私たちはどう行動するべきか」という問いに、確信をもった答えを誰も見いだせない。これからの時代を生きる子どもたちは、予期せぬ事態に対しても、多くの情報から必要だと考えられる情報を選択し、歩いていく必要がある。

本校では、「自律と協調の精神を養い、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」～知性・品性・感性あふる豊城中～という教育目標のもと、「自ら考え行動できる生徒」、「思いやりのある生徒」、「ねばり強い生徒」を旨とし、教育活動を行っている。生徒たちは仲間意識が高く、多様性を認め合える素地がある。一方で、自分の考えに自信がなく、多数意見に流されてしまうことも多い。そこで、自律の力を高めるために、他者のことを考えるよさを更に伸ばし、その力をもとに他者の思いを理解するとともに、自分自身を顧みる。自分自身を客観視することで自己理解を深め、今自分自身には何が必要で、何をすべきなのかを判断して行動できる力を育みたい。

社会情勢と生徒の実態を踏まえ、「自分の考えを再構築し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成」を旨とする。そのために、自分が必要だと考えた学びを実行することと、他者と関わる協働的な学びを繰り返す。そうして自分になかった考えを知ったり、改めて自分を客観的に見つめたりすることで、自分の考えを再構築し、自分にとって最適な学びを自己決定し、実行しようとすることができるだろう。

3 目指す生徒像

「自らの学びを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒」

「最適な学び」とは、

- ・ 自らの学びを客観視し、目標を達成するために自分にとって何が必要かを考えた学びのこと

「自己決定できる生徒」とは

- ・ 最適な学びを考え、実行しようとすることができる生徒

▼教科としての目指す姿を設定する

理科として「自らの学びを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒」とは、

問題を解決するために個人追究を行う中で、仲間や教師との対話の中で他者の考えを租借し、自分の考えや追究方法を見つめ直し、学びを更新していこうとする姿

4 研究の仮説

①生徒自身が成長を感じられる授業展開の中で、②自分を客観的に見つめ理解すること、③他者と関わる協働的な学びを繰り返せば、最適な学びを自己決定し、実行しようすることができるだろう。

5 研究のてだて

- (1) 生徒自身が成長を実感できる単元構想、魅力ある教材づくり ①

授業づくり部会（授業づくり）

○生徒が単元を通して成長を実感できる授業づくり

- ・「であう」→「みつめる・かかわりあう」→「まとめる・ひろげる・活用する」ことができる学習を展開できる単元を構想する。
- ・授業内における生徒が成長を実感できる効果的な支援

- (2) 自分自身を見つめ、自分に必要なことを考え実践する学び方支援 ②

学び方部会（メタ認知）

○生徒が自分自身を客観的に捉えるための振り返り

- ・生徒が「であう」→「みつめる・かかわりあう」→「まとめる・ひろげる・活用する」単元を通して、自分の学習を客観的に振り返り、よさや足りなさに気づく振り返りを実施する。
- ・メタ認知力向上のためのてだて
- ・個別最適な学びのてだて（英語・数学少人数）

- (3) 他者との関わり合いを支えるコミュニケーションスキルの充実 ③

コミュニケーション部会（他者意識）

○生徒が他者と関わり合うためのコミュニケーションスキル向上

- ・生徒が他者との対話スキルを高め、自己理解につなげるコミュニケーションスキルタイムの実施
- ・「伝えたい・わかってほしい」（他者意識）と、「聴きたい・わかってあげたい」（わかってもらう心）の向上

6 今後の予定

- (1) 研究スケジュール

R5…論固め

- 10～12月 … 論固め、授業案形式ほぼ決定、てだての更新
1～3月 … ミニ単元でよいので実践する、1年目の研究のまとめ
※ 授業に慣れる、授業案をかけるようにする
※ 来年度の単元構想の見通し

R6 … 計3回の実践を実施①～③

- 1学期 単元を組んで授業案を書き実践（5～6月）…①
※ プレ発表に向けて、助言者・司会者をよび、単元構想を相談

夏休み プレ発表に向けて、助言者・司会者をよび、授業案のご指導をいただく

- 2学期 学校訪問…②
プレ発表…③

3学期 2年目の研究のまとめ、振り返り

R7 … 本発表

- 1学期 単元を組んで授業案を書き実践（5～6月）…①
※ 本発表に向けて、助言者・司会者をよび、単元構想を相談

夏休み 本発表に向けて、助言者・司会者をよび、授業案のご指導をいただく

2学期 学校訪問、本発表

3学期 研究のまとめ